

令和2年 伊勢市観光客実態調査 第4期速報【概要】

〈今回公表する調査結果〉

伊勢市観光客実態調査 令和2年4期速報

〈目的〉

伊勢市を訪れる観光客の旅行目的、来訪手段、滞在種別（日帰り・宿泊）、立寄り箇所数、消費額、満足度など行動実態に関する調査を実施し、その特性、傾向等を分析することにより本市の観光の実態を明らかにし、本市の観光施策の効果的な推進を図る。

〈調査日〉

令和2年10月3日(土)、10月4日(日)

〈調査方法〉

本市内の調査地点を訪れた観光客を対象に、調査員による「対面聞き取り調査」を行いました。

〈調査地点〉

- ・外宮周辺（外宮前広場）
- ・内宮周辺（おかげ横丁）
- ・二見（二見浦公園駐車場）
- ・河崎（河崎商人館周辺）

〈調査対象〉

- ・調査地点を訪れた観光客を対象とします。（市民を除外しません。）
- ・外国人観光客は対象としません。

〈回収数〉

387 サンプル（うち市民1サンプル）

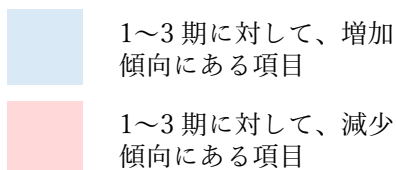
【参考】(H31/R1)	1期(3月)	: 363 サンプル（うち市民23サンプル）
	2期(7月・8月)	: 613 サンプル（うち市民34サンプル）
	3期(11月)	: 378 サンプル（うち市民23サンプル）
	4期(12月)	: 391 サンプル（うち市民11サンプル）

〈留意事項〉

- ・本資料の作成は、令和2年伊勢市観光客実態調査4期速報値を用いて行っています。
- ・今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、これまでと状況が大きくことなっているため、今回は1～3期の速報値と
- ・端数調整により割合の合計が100%とならない場合があります。

●令和2年 伊勢市観光客実態調査（4期）速報結果

※調査自体は市民を含んで実施していますが、下記のグラフからは市民を除いています。

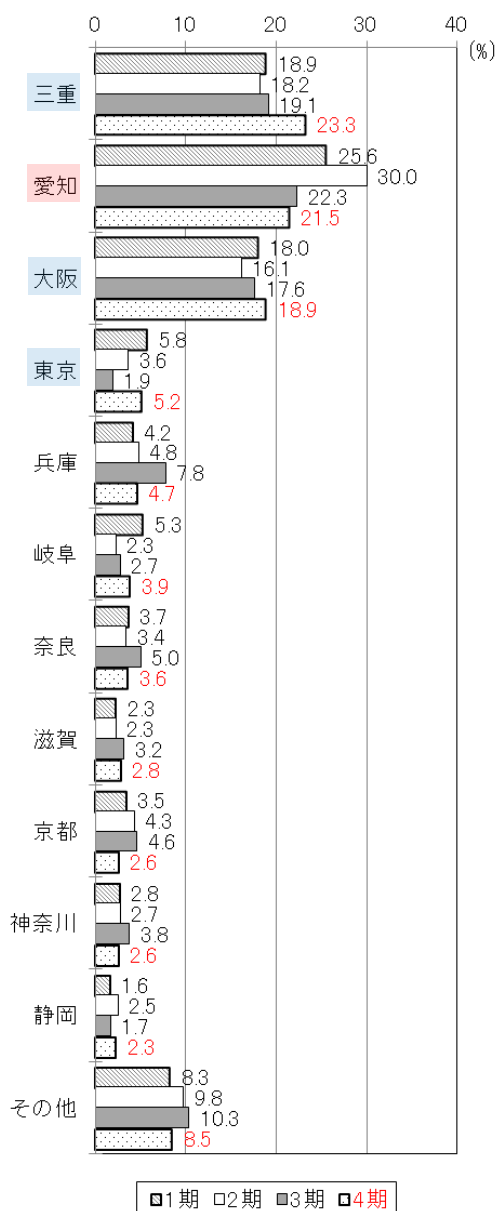


1. 観光客の属性

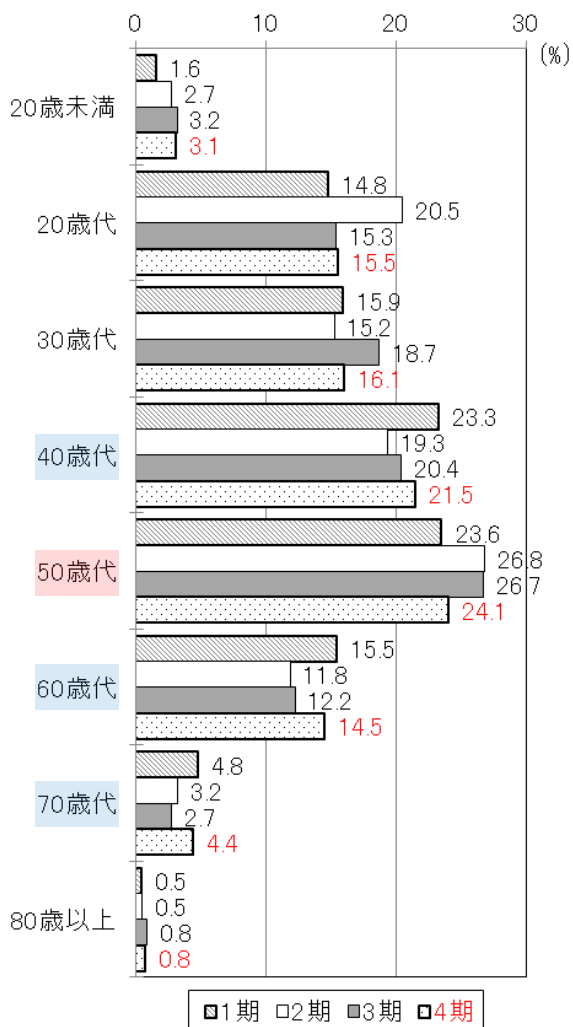
(1) 居住地（都道府県別）では、上位3府県の顔ぶれは変わらないものの、「愛知」が減少傾向にあり、「三重」が増加傾向にあったため、県内来訪者が最も多くなった。また、「大阪」・「東京」は増加傾向にある反面、その近隣府県は減少傾向が多くなっている。

(2) 年齢では、「50歳代」が最も多いのは変わらず、次いで「40歳代」となったが、「60歳代以上」が増加し、1期と同様の傾向となった。

(1) 居住地（都道府県別）

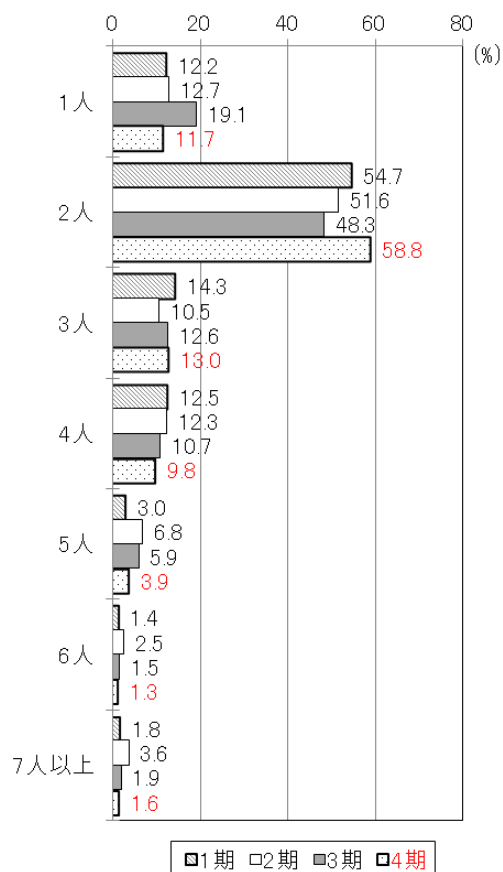


(2) 年齢



- (3) 同行者数は、「2人」が通期で最も高く、逆に「1人」は最も低くなったが、全体的な傾向としては1~3期と大きな変動はなかった。
- (4) 同行者の種類は、同行者数の傾向とリンクしたように、「夫婦」が通期で最も高くなり、逆に「一人旅」は最も低くなったが、「友人」なども増えており、

(3) 同行者数



(4) 同行者の種類

